

編集/コンビニの会事務局
連絡先/〒452-0807 名古屋市西区歌里町 147 番地
TEL/FAX(052)505-6082(コンビニハウス)

障害をもつ人たちの地域生活を支援する

特定非営利活動法人
コンビニの会

定価/150 円
昭和 54 年 8 月 1 日第三種郵便物承認

第148号



インド 1998 年

アジアの笑顔にまなぶ

写真家 長谷川 友子

コンビニハウス会報第3号(1996年11月)が、私の記録用ファイルにある。当時は、会報にカラー印刷は無く、モノクロで撮影している私には何の問題もなかったが(カラー印刷は2015年から。だから私は会報のためのカラー写真を撮らなければならなくなつた)、でも時々「この写真は、カラーで見せたい」と思う事もあった。

当時は、NGOグループのボランティアとして関わりながら、カラーとモノクロフィルム(まだデジタルカメラはなかった)、カメラ2台を使い分けていた。

ここしばらくは、撮影のための旅をしていない。そこで、過去のカラー写真で会報の表紙を楽しんでもらう事にした。今回の表紙の写真は1998年にインド アンドラプラテイツシュ州の村に行った時に出会ったトラックで、すれ違うために私達の車を止めたために撮影することができた。広いインドを移動する時は、まるで高速道路の様(信号がないため)に何時間もひた走る。

(次頁へ)

現在、コロナ禍でイベントのできない地域サロンの壁面を、1995〜2002年に撮影したカラー写真を展示している。会議などでコンビニの活動と関わりのある人達に見てもらっている。

「写真」と出会って、54年が経つ。「写真」は、その時代を写し撮ることになる。出版社へ日本の『昭和』をテーマに出版するための写真を提供したり、「名古屋美術館特別展示『写真の都』物語―名古屋写真運動史・1911-1972」の中で、私が「写真に出会った」1968年に撮影した「郡上」(名古屋女子大学写真部撮影 2016年写真集「郡上」出版)の当時のオリジナル写真が展示される事になっている(2021年2月6日〜3月28日)。写真は撮影した時と、時を経て異なる意味を持つてもう1度立ち登る。過去50年に撮り溜めてきた写真とあらためて向き合おうと思う。



インド 1999 年

雑記 ごまめの歯ざしり

新たな体験

様々な場面で生活のスピードが速くなっていることを感じる。中でもご存知の通りITやネットの世界の進化は目覚ましい限りだが、なかなかついていくのが難しいと思っ

ている人も多いのでは?と思う。音楽の聴き方も随分と変わってきた。今の中高校生は「カセットテープ」を見たことはないし、最近好きなアーティストがいても、そのCDを購入することも減っていて、代わりにストリーミング?で聴くことが多いようで・・・。それは何のこと??と思われる人もたくさんいらっしゃると思うのだが、かくいう私も、つい最近、子供に一から説明してもらった。がどれだけ理解できたやら・・・。しかし、このコロナ禍でコンサートやライブに行くことも叶わず、代わりにネットでの配信生ライブを初体験した。始めはやはり、実際にコンサート会場に行くこと自体にワクワク感を感じることであるし、自宅のテレビ画面でそれを観たところでもどこまで楽しめるか・・・と思っていた。しかも、接続してログインするにも子供達の手を借りないと出来ない。でも実際に始まってみると今までのコンサートとはまた違った意味で、思いのほか楽しむことができた。

老いては子に従えとよく言うが、我が家は年齢に関係なく、それぞれ分からないことはそれについて詳しい人に聞くことも多い。年齢を重ねて経験値は上がって行くが、最新の情報は若い人に教えてもらう方が圧倒的に早くて詳しいと思う。もし機会があれば身近な若者にITの世界に連れて行ってもらおうと、新しい世界を体験できるのではないだろうか。

(会報委員 鈴木 奏子)

2021年 年頭ご挨拶

特定非営利活動法人コンビニの会 理事
社会福祉法人エゼル福祉会 評議員

宮川 優子

会報読者の皆さま、今年もよろしくお願い
します。

昨年は新型コロナウイルスの流行により、
私たちの生活や仕事が大きく変わりました。
まだまだ収束の見通しが立たず我慢を強い
られることが続きそうです。少しずつ良い方
向に向かうことを信じてしばらくは静かに
過ごしていくことにしましょう。

感染や発症のメカニズムなどの医学的な

知識は当初に比べ深まってきました。欧米に
比べ日本での感染率、重症化率、死亡率が低
い理由には社会的要因が関与していると推
察されます。衛生に対する意識の高さ、手指
消毒の習慣、マスクの着用は効果をもたらし
ます。会報2020年7月号での掲載記事
(ホームページで読めます)にあるように介
護現場では大変綿密な対策が採られており
感染を防いでいると考えます。引き続き面倒
でも効果のある予防策を続けることになり
ます。



エゼル福祉会については2019年に歌
里町に拠点が移り、通所部門がWILLとV
OLOに分かれたことは昨年の年頭に報告

しました。次は親亡き後の生活を見据えた支
援の体制を作ることが大きな課題です。すで
に新施設の建設を2022年度に着手する
と大川理事長は明言しています。2021年
度後半に設立準備委員会を設置し、具体化し
ていくスケジュールです。以前の拠点であつ
た中小田井に土地がありますが、多くのニー
ズに応えるためには広い土地が必要だとい
う意見もあります。いやいや、こんな先行き
不透明な時に不動産の取得など減相もない
という意見もあります。優先順位をどのよう
にするかを話し合いながら決めていきます。
みなさん遠慮なく意見をお寄せください。
また、会報2020年11月号で(ホーム
ページで読めます)に日本福祉大学の木全先

生に支援者の傷ついた心からの回復について教えてもらう対話を掲載しました。反響が大きく、当法人の人材育成の丁寧さを評価していただきました。職員の数は増えましたが設立の理念である利用者主体の姿勢を忘れないようにしていきます。



コンビニの会については地域サロンの活動が休止になっている状況で、会報の発行とパルハウスの大家としての仕事のみです。ただし新施設建設に向けて制度外の事業ができるのはNPO法人の役割と考えます。会報には完成までの活動報告を詳しくお知らせしていきます。



最後になりましたが、2020年6月に息子の等が30歳で亡くなりましたことをお知らせしておきます。幼い頃は体が思うように動かないいらだちや不安からよく泣き、育てるのに苦労しました。それでも十代後半になると表情を使って周りの人に自分の思いを伝えるのが上手になり笑顔がどんどん増えていきました。最期まで好きなものや好きな人に囲まれて幸せな人生だったと思います。これまで息子を支えてくださった皆さんに心より感謝申し上げます。

半年以上経ちましたが心の中は寂しさと悲しさでいっぱいです。息子の命を守ることが最優先にしてきた経験を深く噛みしめてこれからは生きていこうと思います。とはい



2019年12月 自宅にて

え、時間に追われる生活から一転、息子からもらった自由時間があります。利用者家族という立場ではなくなりましたが会報での情報発信などやっています。今年もどうぞ引き続きのご支援をよろしくお願いします。

エゼル福祉会 2020年度 上半期事業報告

【通所部】

● WILLの活動は、明確に「仕事」を打ち出しました。

① 製菓グループの仕事内容・材料費・出荷時のダブルチェックなどシステムを徹底的に見直しました。また販路の見直しなどにより売上が上がり仲間の給料に反映できました。

② 軽作業グループは仲間の生産能力に応じて仕事を分担し、情緒的に不安定な仲間の居場所を作ることが出来ました。また、エゼル福祉会から仲間ができる仕事の委託（会報の宛名貼りなど）を受け、軽作業グループの仕事内容が増えました。

③ 製菓グループと軽作業グループの連携協力ができ、コロナ禍における非常事態にも

かわらず毎日仕事を続けることができました。

以上の事を職員全体で話し合い、改善を心がけました。

● VLOは、身体障害の仲間中心の施設として日々の活動や日課の見直しを行いました。

① パソコングループでは、ICTを通して自分の興味や関心のあることを検索して余暇の過ごし方を工夫しました。

② リラクグループでは、身体の緊張や拘縮の予防を目的にストレッチ等を中心に活動しました。

③ 全体での活動は、季節に応じた作品作りや行事のための作品づくりなどを行いました。

● 組織運営

① 業務の整理と効率化できる部分を話し合い、働きやすい職場づくりを目指して職員の働き方の改善を図りました。

② 月に1回の職員会議を定例化したことや、各部門で話す機会を設けたことにより、

活動内容や仲間について話し合う時間が確保でき、職員間での情報の共有化ができました。

③ 毎日の職員による振り返りを通じて、仲間の一日の様子等を報告しあい、仲間について共通認識が持てるようになりました。

● まとめとして

全体を通じてこの上半期は世界中がコロナウイルスに振り回されました。ウイルスを施設に持ち込まない対策を万全にした結果、通所にウイルスを持ち込まず通常の活動が行えました。

しかし仲間も職員もいろいろな面で我慢をしなければならなかった半期でした。新しい生活様式を考えながら外出できないストレスなどを施設内で発散できるように「なんちゃって喫茶」や「なんちゃってカラオケ」などを行って、施設内で発散できるように工夫しました。

下半期を迎えるにあたって新しい生活様式を取り入れた施設での活動を創意工夫しなければならぬと感じています。

【生活支援部】

● 重点目標について

① 人材の確保・育成

・新型コロナウイルスの影響で、予定していた人材確保の動きができませんでした。重度訪問介護講座も当初の予定より約2か月遅れての開講となりましたが、受講した学生3名が活動を開始しました。

・パート、学生ヘルパー個々の理由によって勤務時間・日数が月により大きく変動したため、安定してサービス提供を増加させることができませんでした。また、新型コロナウイルスの感染拡大により活動を休止したヘルパーもいました。

・職員研修の多くがオンライン化され、以前よりも研修参加を調整しやすくなりました。生活支援部内ではケースワークを開催し、理念や支援方針の確認を行いました。

② 中長期計画の策定

・親の会主催で「生活の場づくり」についての勉強会が始まり、生活支援部の職員も多く参加しました。普段聞くことのできない

家族の思いを聞くことができ、職員にとって今後の暮らしの場を考えていく良い動機付けとなりました。

・利用者家族が亡くなったり、病気になることが続いております、生活の場づくりが喫緊の課題となっています。

● 実践現場について

共同生活援助バルハウス（グループホーム）

・新型コロナウイルスの感染が広がった時期はグループホームの利用者1名が実家に帰省しました。

・新型コロナウイルスの影響でこれまでのような余暇の過ごし方をすることができず、利用者は混乱やストレス状態になっていることが見受けられました。徐々に過ごし方の変化を受け入れていっていますが、自粛期間中の過ごし方について、職員側の提案力不足も露呈しました。

障害者ヘルパーステーション（いーだ）

（地域で一人暮らしをされている方について）

・新型コロナウイルスの感染が広がった時期

は1人暮らしをしている利用者1名が実家に帰省しました。

・自由に出かけられなくなった分、利用者同士がお互いの家に行き合う機会が増えました。SNSを通じてつながったり、家の掃除や整理整頓をヘルパーに頼んだりと自粛期間の過ごし方をそれぞれ考えて過ごしていました。

障害者ヘルパーステーション（いーだ）

（親元で暮らされている方について）

・人材確保が進まず、女性利用者の引継ぎができていません。

・施設入所を考える利用者もあり、エゼルとしての支援が広がらないために将来が見通せない不安を抱えておられることが伝わってきます。

・利用者家族の入院など、緊急時は通所部とも協力して出来る限りの支援を行いました。

指定短期入所コンビニハウス

（ショートステイ）

・人材確保が進まず女性利用者のショーツ

ティ開始の目途が立っていません。

・緊急時対応で新規利用者1名の支援を行いました。

・これまで定期的にショートステイをされてきた利用者1名が、他事業所の支援も受けながら、実家近くでアパートを借りてヘルパーとの生活を開始しました。

● 職員の勤務時間について

・課題となっていた職員(管理職)の現場における直接支援時間の削減や、職員の就業時間の短縮については人材確保が進まず、上半期は働き方の改善を行えませんでした。

・新型コロナウイルスへの対応に伴うシフト変更が相次ぎ、支援時間や事務作業が増え勤務日・時間の変更が頻発したことで職員の負担が増しました。また、そうした緊張感がいつまで続くかわからなかったことも、精神的に職員を疲弊させていました。

・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、職員・ヘルパーへ留意点や対応方法についてどう周知させていけばよいか課題となり

ました。緊急一斉メールは一方的な発信である為、どの程度伝わっていたのか不確かでした。メールでの発信と共に直接対話して伝えていくことを基本としなければ誤解が生じることを痛感した事例もありました。コロナ対策に限らず、日頃の情報共有の仕方に課題が残ります。

【相談支援事業】

新規契約については、4月以降5件を受けています。傾向としてはやはり精神障害の方の問い合わせや依頼が増えていると思います。

コロナ禍において、名古屋市より訪問等の取り扱いを電話等でも可能という通達があり、振り替えられる部分では可能ながきり、直接の訪問や密になる接触を見合わせながら感染予防に努め、法人内に持ち込まないようにと意識してすすめてきました。

利用者の状況としては、精神障害の方で単身で親族等の身寄りがなく、事業所や医療と関係が切れてしまい精神的に不調になった

まま連絡を遮断したり、不穏な行動にでる方もおり、保健センター等の行政や医療機関、基幹相談支援センターに相談して動いています。また事業所の人員不足や体制変更で、ヘルパーがみつからないといった状況もあり調整が難航するケースがあります。家族全員が手帳をもっている複合的なケースや入院する利用者の連絡調整などで動くことも上半期は多くありました。

今年度は西区自立支援連絡協議会の相談支援部会世話人を引き受けておりますが、集まつの会合はコロナ禍で開催できず、現在はZOOMを利用したオンラインにて、月1〜2回ペースでかわらせていただいております。社会資源の情報共有や事業所の実情を把握し、地域で協力できるようにと考えております。下半期については、新規利用者の相談依頼は、状況に応じて都度検討していきたいと思ひます。



ボランティアから評議員に

エゼル福祉会 評議員

茂手木 利典

◆ 大川美知子理事長よりご紹介 ◆

十年以上も前のことになりますが、熱田区の社会福祉協議会から災害弱者避難の講演を依頼されたことがありました。

その折に事務局長の茂手木さんから「私、コンビニハウスで送迎のボランティアをさせて頂いているのです」と伺い、「お礼も申し上げずに失礼しました」と恐縮したことがありました。

先日、職員から「茂手木さんが送迎ボランティアを辞められることになって・・・」と聞かされ、あれからずっとボランティアを続けて下さっていたと知り、十年前以上に驚き

ました。サロンで授産施設WILLのケーキをご馳走して茂手木さんに評議員をお引き受け頂きました。

(エゼル福祉会 理事長 大川 美知子)

新しく評議員に推薦いただきました茂手木です。微力ではありますが、エゼル福祉会のお力になれるよう務める所存です。よろしくお願いします。この誌面をお借りして少し自己紹介をさせていただきます。

私はこの1月でちょうど70歳になります。小学3年生までを三河の碧南市で過ごしました。当時はテレビが珍しく我が家にもテレビが無くて近所の家で見せてもらっていました。その頃夢中になって見ていたのが、正義の味方月光仮面が悪のサタン一味をやっつける「月光仮面」でした。そして私の心にも今でも残っているのが主題歌の2番の歌詞

です。

「何処かで不幸に泣く人あれば、必ず共にやって来て、真心こもる愛の歌、しっかりとるよと慰める。誰でも好きになれる人、夢を抱いた月の人、月光仮面は誰でしょう、月光仮面は誰でしょう」

子供心に漠然と、こんな人になりたいな、という思いが生まれていました。ただ、それが福祉の道には結びつかず、大学は法学部に進み、公務員の道を選んで名古屋市役所に就職しました。

しかし仕事は内部事務が多く、人様のお役に立っているのかな？との思いは持っていました。そんな役所生活の最後の6年間に熱田区社会福祉協議会（以下「社協」と略します。）の事務局長に配属されました。そのの高齢者デイサービスセンターで毎日、利用者である高齢者の皆さんとお話やゲームをし

たり、卓球のお相手をしたりする中で高齢者の皆さんからいただく「ありがとう」「楽しかったよ」といった感謝の言葉や笑顔に接して、「ああ、やつと自分の仕事が人様のお役に立っているんだ」という実感が湧いてきました。そして私自身が高齢者の皆さんに癒やされ、逆に元気をいただいている事に気付きました。福祉の仕事の楽しさ、やりがい分かり始めました。

さて、私が社協に配属される1、2年程前から、ボランティアをしてみたいという気持ちで湧いてエゼル福祉会のボランティア募集を知り、そこで紹介されたのが人工透析患者のWさん（当時30代）を透析のために病院へ車でお送りする、というものでした。私は車が無いので、名東区の自宅から自転車で行き、西区上小田井のコンビニハウスまで行き、そこで車をお借りしてWさんを病院まで月1

回（土曜日）お送りしました。当日朝5時半に起きる事だけは辛かったですが、自転車で行く事は苦にならずサイクリング気分を楽しんでいました。車の中では、大のドラゴンズファンのWさんと野球の話をしていました。Wさんがドラゴンズの選手の話しになると、とても嬉しそうな顔をされるのが印象的でした。



このボランティアを昨年辞めるまで17～8年間続けました。

そんな中で、社協が主催して障害者に関する講演会を開催する事になり、講師をエゼル福祉会の大川理事長にお願いしました、と部下から報告を受けました。奇遇でした。講演会の当日、大川理事長に「実は私、エゼル福祉会でボランティアをさせていただいてい

ます」とお話ししたところ、大川さんは「そうなんですか!」と驚かれていました。

その後、市役所を定年退職し高齢者福祉施設「都福祉会館」の館長を5年間勤めて、今は自閉症やダウン症など発達障害を持つ子ども達を受け入れる放課後等デイサービスに常勤職員として就職し現在5年目になります。障害を持つ子ども達が成長する姿を見ると、高齢者の方とは別のやりがいや楽しさがあり、よき同僚職員にも恵まれて充実した時間を過ごしています。

これまでの経験を活かしてエゼル福祉会に少しでも貢献ができれば幸いです。よろしくお願いします。



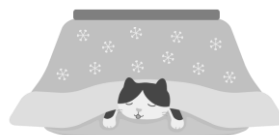
《活動状況》

11 月

- 3 日 W I L L ・ V O L O 祝日開所
- 10 日 名古屋生活支援事業所連絡会研修
(リモート)
“新型コロナウイルス感染防止策を学ぶ”
ゆたか福祉会理事 後藤 強 氏
- 11 日 名古屋特別支援学校生 W I L L 見学
- 13. 19. 20 日
西養護学校生 W I L L 実習
- 13 日 名古屋生活支援事業所連絡会会議(榊原)
- 13 日 生活支援部グループホーム会議
- 14 日 通所主任会議
- 16 日 ケース会議
- 17 日 名古屋市役所との懇談会(渥美・榊原)
- 18 日 インフルエンザ予防接種
- 19 日 事務局会議
- 19 日 暮らしの場交流会(渥美)
- 24 日 事務局会議
- 25 日 会報発送
- 26 日 通所親の会
- 26 日 理事会(リモート)
- 30 日 感染対策会議

12 月

- 7 日 生活支援部グループホーム会議
- 8 日 会報会議
- 9 日 W I L L クリスマス会
- 10 日 港特別支援学校訪問(伊藤・大森直)
- 11 日 評議員会
- 17 日 通所主任会議
- 18 日 防災総括会議(宇都宮・久野・稲垣)
- 20 日 サロン de クリスマス会
(生活支援部主催)
- 22 日 イオンワンダーシティ様 VOLO 来所
法人へクリスマスご寄付贈呈式
- 22 日 事務局会議
- 25 日 W I L L ・ V O L O 忘年会
- 29 日 通所総括・大掃除

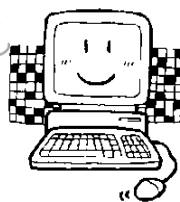


**NPO法人イー・エルダー様より、
ノートパソコン1台を寄贈していただきました。**

VOLO スタッフルームに設置させていただきました。
大切に使用させていただきます。ありがとうございました。



事務局コーナー



「ご協力ありがとうございました」

11月～12月（敬称略・順不同）

★ ご寄付いただいた方々

(NP0 法人コンビニの会)

※会報購読料1万円以上お振込みの方

福井いずみ

★ 物品寄付をいただいた方々

(コンビニハウス)

厚労省 イオンワンダーシティ

東名メンテナンス 滝藤建設

塩澤しのか 佐藤慶太 梅村様

石原まち 桑名妙子 井口結唯

(WILL)

伊納尚男 丹羽恵子 渡辺武司

(VOLO)

石原優樹 宮田まどか 小松えり子

大嶋千波 長谷川泰史

長野資子 栗本博美

★ 会報発送ボランティア

吉田嘉子 丹羽正子

★ 活動にご協力いただいた方々

(コンビニハウス)

石原正寅 辻本道子 大森 信

藤本菜見 東原光江 榊原さち

石原まち 寺西 剛 鈴木千春

伊藤翔磨 松本浩希 岩崎桃佳

田村淳仁 田邊利徳 酒井まみ子

西川昇吾 隅田 豊 和田遥香

上野知志 清水柚衣 川口侑里

村上梨央 森岡佳乃 磯村みづき

栗本博美 牧ヶ野裕子

(WILL)

大森 信 奥村信子 上田知子

上野初恵 大井勝国

(VOLO)

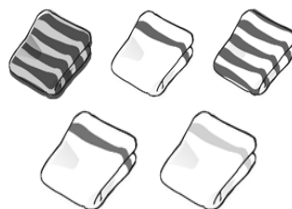
早川佳乃 小出美穂

長野資子 栗山弘美

前号の会報にて、タオルのご寄付を
お願いしましたところ、
多くの方より沢山のタオルをご寄付頂きました。

誠にありがとうございました！！

VOLO スタッフ一同





2020年12月22日にイオスタイルワンダーシティ
からサンタさんがプレゼントを持って来てくれました。
プレゼントは元気になれる栄養ドリンク〜♪



【銀行口座】三菱UFJ銀行 小田井支店 店番 238 (普) 口座番号 1440108
特定非営利活動法人 コンビニの会
【郵便振替口座】番号 00800-2-35190 コンビニの会

ご意見・ご質問・お問い合わせは下記までお寄せください。

障害のある人たちの地域生活を支援する
特定非営利活動法人

〒452-0807 名古屋市西区歌里町 147 番地

コンビニハウス Tel (052) 502-7731

Fax (052) 505-6082

コンビニの会
理 事 宮川 優子

U R L <http://ezeru.sakura.ne.jp/>
E-mail convini@beach.ocn.ne.jp

